

思いを届ける

生徒指導担当のN教諭から、うれしい提案をもらいました。「『あつたかい言葉がけ運動』で生徒たちが書いた文章の中に、地域のことが多く書かれていたので、その情報を地域に届けるのはどうでしょうか。」

すばらしい提案でした！ぜひとも実現させたいと私は思いました。「あつたかい言葉がけ」ということで生徒たちが自由に書いた文章の中に、地域が関係した内容があるということは非常にうれしいことですね。彼らの身近には、仲間、家族、学校関係者という順番でその存在が強く印象づいていると思つていました。が、積極的に地域に思いをもつ生徒もいることがわかり、私は大きな感動を覚えしました。

今年度、瑞浪北中学校の「目指す学校」として、「地域と結びつく学校」という言葉を掲げました。また、教育活動の合言葉のサブタイトルとして、「地域に特長を発信する年」と位置付けました。地域の要請に応えるだけの学校ではなく、地域にアプローチできる学校にしたいと考えたのです。

地域のために何か大きなイベントをし（て招待し）たり、すごいものを寄付したりする必要はありません。生徒の皆さんが地域について思っていることや考えていることを自分たちから発信する、つまり「思いを届ける」ことができれば地域の方たちは喜び、安心してくださると思うのです。

そう考えた時に、たまたま書いたものの中に、地域（の人たち）についてのものがあり、それを発信し知っていたただくことは絶好のアプローチ方法だと言えます。地域（の人たち）について書いたことが、学校の中だけで認められたり、地域（の人たち）の知らないところで独り歩きしたりしていたら、「地域と結びつく学校」は実現しません。

日吉地区、大湫地区、釜戸地区にはコミュニティセンターがあり、そこに北中生の思いを届ければ、広報誌でその地区全体に発信していただけます。土岐地区と明世地区については、コミュニティセンターはありませんが、青少年健全育成町民会議やまちづくり推進協議会という組織に届ければ、何らかの形で北中生の思いを広げいただけます。六月十四日のメッセージに書いたM・Yさんの主張についても、大湫町の人々に知っていたただくために、私は早速大湫コミュニティに原稿を届けました。

「地域と結びつく学校」は「地域に思いを届ける学校」と言い換えてもよいでしょう。現在生徒会で取り組んでいる地域に花を送ろうという取り組みも、生徒の皆さんの思いを届けるものだと思つていきます。花一鉢にどれだけ多くの思いを詰められるか工夫してみてください。メッセージカードがついた花をもらおうと感動が大きく膨らみますよ。（六月二十五日 記）